

挑む!

小説家

こうぎょく

紅玉 いづきさん(31)

## 恩返しのため書き続ける

図書館で借りられるだけ本を借り、少女向けのコバルト文庫を読みふけた。小学生のころに物語を書き始め、高校生作家の活躍を知って自らも20歳までにデビューすると誓った。

かなわないまま大学卒業を控え、最

後とあって応募した作品が賞を受けた。2007年発売の「ミミズクと夜の王」は、死を望んで森に入った少女の再生を、童話のような、西洋の幻想小説のような筆致で描いた。

強い意志を持つ女性の心の揺れを織



1984年、金沢市生まれ、金沢大学卒。「ミミズクと夜の王」で電撃小説大賞を受け、2007年デビュー。他に「ブランコ乗りのサン＝テグジュペリ」など。筆名は誕生石のルビーから。

細につづってきた。新刊「現代詩人探偵」で初めて男性を主人公にミステリーを執筆したのは、ある謎解きの仕掛けを考えついたから。詩人になりそこねた若者が、昔の仲間たちの死の真相を知ろうと探偵よろしく行動する。

「昔から現代詩に興味があったのですが、詩人はみな生きづらそう。それでもなぜ、今、詩を書くのか、小説家にも通じる問いです」

速度を増す時代にあらがうように生きる詩人と、死の真相を暴くことで人を傷つけてしまう探偵。そして、詩と死。二つの業に自らの問いも重ねながら、3年がかりで書きあげた。

「物語という創作物に幸福にしてもいい、ずっと書いていたくて作家を選んだ自分がある。恩返しのため書き続けられるなら、それでいい」

文・野波健祐 写真・伊藤菜々子

記者から

内省的でありながらエンターテインメント。目指せ直木賞、いや本屋大賞か。